

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第2区分

【発行日】令和6年9月27日(2024.9.27)

【公開番号】特開2023-58104(P2023-58104A)

【公開日】令和5年4月25日(2023.4.25)

【年通号数】公開公報(特許)2023-077

【出願番号】特願2021-167881(P2021-167881)

【国際特許分類】

F 16 H 1/16(2006.01)

10

B 62 D 5/04(2006.01)

【F I】

F 16 H 1/16 Z

B 62 D 5/04

【手続補正書】

【提出日】令和6年9月2日(2024.9.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0098

20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0098】

また、本例では、前記中立状態からウォーム16が基端側あるいは先端側に移動する際のストロークは、前記中立状態において内輪36の先端側の側面と第2小径段差面28との間に存在する隙間、あるいは、内輪36の基端側の側面とスペーサ44の円筒部45の先端側の側面との間に存在する隙間の軸方向幅Caによって決まる。ここで、仮に、図1-4に示した従来構造のように、これらの隙間の内側に、ウォームダンパ18の第1側板51の径方向内側部分が挿入されていると、第1側板51の板厚寸法の公差を考慮して、これらの隙間の軸方向幅Caを管理する必要がある。これに対して、本例では、これらの隙間の内側に、第1側板51の径方向内側部分が挿入されていない。第1側板51の内周面は、これらの隙間よりも径方向外側に位置する、円筒状外周面49または中径円筒面部25に隙間嵌めで外嵌されている。このため、第1側板51の板厚寸法の公差を考慮することなく、これらの隙間の軸方向幅Caを管理することができる。

30

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0112

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0112】

本例では、図10に示す組み立て状態で、第1側板51の内周面と第2側板52bの内周面とのそれぞれを、円筒状外周面49または中径円筒面部25に隙間嵌めで外嵌することにより、ウォーム16に対するウォームダンパ18bの径方向の位置決めが図られている。このため、第1側板51の内周面のみを円筒状外周面49または中径円筒面部25に隙間嵌めで外嵌する第1例の構造に比べて、組立作業時に、ウォームダンパ18bの中心軸がウォーム16の中心軸に対して傾斜しにくい。

40

【手続補正3】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図8

【補正方法】変更

50

【補正の内容】

【図8】

